

1 題材 アカペラの魅力

2 目標

- アカペラの合唱に積極的に取り組み、進んで歌唱表現しようとする。(音楽への関心・意欲・態度)
- 声の積み重ねによるハーモニーの美しさを感じ取っている。(音楽的な感受や表現の工夫)
- 演奏を客観的にとらえ、全体の響きの調和を感じ取って歌うことができる。(表現の技能)

3 教材

- 「Kum ba yah」(西インド諸島民謡/花岡恵 日本語詞/原由多加 編曲)
- 「ふるさと」(高野辰之 作詞/岡野貞一 作曲/黒部美樹 編曲)

4 指導観

- 本題材は、学習指導要領の第2学年及び第3学年の表現の内容(1)ーキ「音色、リズム、旋律、和声を含む音と音とのかかわり合い、形式などの働きを理解して表現を工夫すること」、ク「速度や強弱の働きによる曲想の変化を理解して表現を工夫すること」をねらいとして設定したものである。

アカペラは、伴奏がなく、人の声だけで曲を表現していく演奏スタイルである。アカペラは伴奏が入らない分、演奏者の声に対する集中力が増すことによって、ハーモニーも耳に入りやすくなる。アカペラを合唱することで生徒のハーモニー感を育て、合唱の基礎能力を養うことができる。ここでねらいとする「音色、リズム、旋律、和声を含む音と音とのかかわり合い、形式などの働きを理解して表現を工夫すること」は、声部の役割や全体の響きの調和を感受し表現する技能、また和声やリズムなどの効果の感受や技能を身につけて表現を工夫していくことである。生徒自身の耳で自分達の演奏を判断し、楽譜や演奏の流れから改善点を探して、よりよい表現活動へつなげていくことが重要である。また、互いに聴きあいながらアカペラを学習することで、自分の声だけでなく、まわりの声に合わせて歌うことの充実感を味わえるようになる。

- 本学級は男子16名、女子18名の計34名で構成されており、音楽の授業に意欲的である。前時までの合唱コンクール練習を通して、歌い合わせる基本的な楽しさと難しさを体験した。また素直に話を聞く態度もあり、発問に対しても積極的に発表することができる。
- そこで本題材では、まずアカペラの特徴を、原曲とアカペラ編曲とを比較することで生徒に理解をさせたい。また教材「Kum ba yah」をアカペラの導入とすることで、クラス全体でハーモニーを作り出すことの楽しさ・難しさを体感させたい。

「ふるさと」ではまず、教材の範唱CDを聴いたり歌詞解釈をしたりすることで曲に対するイメージをふくらませ、どのような表現をしたいかを全体で統一させたい。その後、曲中の旋律、速度、強弱などの曲の構成要素を確認しながら練習をしていきたい。そして全体で構成の確認をし、歌い方や表現の充実を図るために全体で歌うことでより曲の雰囲気味わえるようにしたい。そして人の声だけで作り上げる響きの豊かさや美しさを味わい、調和させることの喜び・難しさを体感することで自分たちが奏でるハーモニーや声の響きを意識するようになり、そのことが今後の音楽活動にも生かせるようにしたい。

5 指導計画

アカペラの魅力・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3時間

- (1) アカペラの響きを感じることができる。————1時間（本時）
- (2) 教材「ふるさと」を、正しい音程で言葉をはっきりと歌うことができる。————1時間
- (3) 演奏を客観的にとらえ、全体の響きの調和を感じ取って歌うことができる。————1時間

6 本時の目標

- アカペラの合唱に積極的に取り組み、進んで歌唱表現しようとする。
- アカペラの響きを感じることができる。

7 学習指導過程

学習内容及び活動	指導上の留意点	準備物
1. アカペラについて学習する。 ●合唱のルーツについて ●現代のアカペラ	○前時までの合唱練習のことを振り返る。 ○「グレゴリオ聖歌」を聴かせることで、昔の合唱は単旋律だったことを気づかせる。 ○「ハモネプ」の映像を用意する。	CD DVD
2. アカペラアレンジと原曲の違いを理解する。 ●伴奏付の「アメイジング・グレイス」を鑑賞する。 ●アカペラ版の「アメイジング・グレイス」を鑑賞する。	○ワークシートに記入させる。 ○アカペラで歌うとき、何に気をつけないといけないのかを考えさせる。	ワークシート CD
3. 「Kum ba yah」を歌う。 ●範唱 CD を聴く。 ●パート練習をする ●全体合唱をする。	○各パートの範唱 CD を準備し、スムーズにパート練習ができる環境を整えておく。 ○周りの音を聴くように指導する。	歌詞カード CD
4. ワークシートに感想を記入する。	○自己評価をさせる。	
5. 本時のまとめをする。		

アカペラ(a cappella)の魅力

2年【 】組【 】番 名前【 】

1. 「アメイジング・グレイス」の伴奏つき演奏と、ア カペラを聴き比べて、聴こえ方にどう違いがありましたか。

(声の響き、緊張感、声のまとまり、派手さ、ハーモニーの美しさ)

2. ア カペラで演奏するときに気をつけなければいけないことは何だと思いますか。

自己評價

- | | | | |
|-----------------------------------|---|---|---|
| ① ア カベラとピアノ伴奏付演奏の違いを感じ取ることができましたか | A | B | C |
| ② 「Kum ba yah」を正しい音程で歌うことができましたか | A | B | C |
| ③ 1 時間を通して、意欲的・積極的に活動できましたか | A | B | C |

感想

「Kum ba yah」

こえあわせ Kum ba yah !

うたおうよ Kum ba yah !

みらいへと Kum ba yah !

Oh, Lord, Kum ba yah !

しあわせを Kum ba yah !

いのろうよ Kum ba yah !

いつのひも Kum ba yah !

Oh, Lord, Kum ba yah !